

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2006～2009

課題番号：18520249

研究課題名（和文） アメリカ黒人文学と音楽文化におけるイスラム教の影響：破壊的欲望と創造のメカニズム

研究課題名（英文） Muslim influence in African American Music Culture and Literature

研究代表者

ウェルズ 恵子（WELLS KEIKO）

立命館大学・文学部・教授

研究者番号：30206627

研究分野：アメリカ文化

科研費の分科・細目：英語圏文学・文化

キーワード：音楽文化、アフリカ系アメリカ人、宗教文化、アメリカ黒人文学

1. 研究計画の概要

奴隷時代から今日に至るまでのアフリカ系アメリカ人（以下、黒人）の文学と音楽文化（特に歌詞）を分析し、そこに彼等の破壊的欲望と創造的建設的意思がどう表現されてきたかを追跡する。

(1) 奴隷時代の歌が現代音楽にどのように伝統をつないでいるかについて分析し、根源的恐怖が想像力の源泉であることを指摘する。

(2) ラップ文化に代表される現代音楽に、奴隷時代の歌の伝統と新たな要素がどのようにかかわっているかを分析する。その時、60年代から盛んになったブラックイスラムの要素に注目し、キリスト教との関連を文化的に観察する。

2. 研究の進捗状況

(1) 奴隷時代の歌の現代音楽との関連については、研究のまとまりをみた。

現実への絶望が死後の世界への希望となり、その希望の表現が創作の源となっている。

率直に言語表現するのを禁止・抑圧されている状況で、なお表現したいとの気持ちが、独特の迂回表現を生み、それがフォーミュラ化してアフリカ系アメリカ人の言語活動の特色として発展してきた。

アフリカ系アメリカ人の音楽文化は、白人系音楽プロモータの扱いによって消滅、発展、変遷してきた。

の過程で、宗教音楽と俗音楽に分離してきた。

黒人による音楽文化プロモーションは、30年代に宗教音楽をはじめとして開始した。

(2) ラップ文化の研究については、研究素材が膨大であることと、相当なフィールドリサーチが必要になることがわかったため、本研究期間において終了することはむりである。そこで、本助成期間の成果としては、この課題でもっとも重要な論考を発表していると思われるマイケル・ダイソン氏の著書の翻訳をすることとした。これについて、出版社と交渉中である。これまでにわかっていることは以下。

ヒップホップの歌詞に表象される母親が、奴隷歌の母親像（絶対的な保護者）に深く関連している。

ヒップホップの歌詞に表象される恋人が、ブルーズの歌詞の恋人像（誘惑的な悪であり拒否者）に深く関連している。

闘争の表象に、60年代から広い支持を得てきているブラックイスラムの影響がみられる。

ヒップホップ世代の歌手・作者たちが、ブラックイスラム運動の第二世代（子供たちの世代）であり、その運動のインパクトと失敗とを感覚的に受け継いでいる。

3. 現在までの達成度

おおむね順調に進んでいる。

項目2に述べたように、二つの目的に関してそれぞれ順調である。一方、研究上の新たな課題も見えてきたので、それらを今後の研究に発展させていく必要がある。（項目4に説明）

4. 今後の研究の推進方策

本助成期間では、今後は以下の研究・作業を行い、成果のまとめに集中する。

(1)20世紀初頭に数多くいたといわれる、辻説教師でありストリートミュージシャンでもあった盲人たちの活動と文化について、調査、研究して論文をまとめる。

(2)70年代から80年代にかけてのヒップホップシンガーたちの文化について調べ、研究方向を絞っていく。

(3) Michael Erick Dyson の著書翻訳の刊行に向けた準備

計画を新たにして詳しく研究する必要があるのは以下の課題である。

(1)アフリカ系アメリカ人の歌に特徴的な、意味の重層化について。

(2)ラップ文化の諸相(ラップ文化については研究が始まったばかりで、焦点を絞りにくい。まずある程度の時間をかけて、広くリサーチする必要がある。)

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計3件)

ウェルズ恵子「黒人霊歌の現代：ゴスペルソングの始まり」、『立命館言語文化研究』、第18巻3号、173-185頁、2007年、査読有。

ウェルズ恵子「恐怖の鎖を解くために：ジョンソンとオダムの黒人霊歌集」、『岩波文学』第8巻1号、236-249頁、査読有。

ウェルズ恵子「喪失の痛みを抱いて、ブルースへ：ブラインド・ウィリー・ジョンソンとローバーと・ジョンソン」、『立命館言語文化研究』、第19巻2号、2007年、191-211頁、査読有。

[学会発表](計1件)

ウェルズ恵子「黒人宗教民謡の口承テキストに対する二つのアプローチ」ユタ州立大学英文科連続講演会 (アメリカ合衆国ユタ州立大学、2008年9月3日)。

[図書](計1件)

ウェルズ恵子『黒人霊歌は生きている』(岩波書店2008年226頁)。